

高校生アンケート調査について（概要版）

1. 目的

高校生の通学時の交通手段や意向等を把握することを目的に調査を実施。

（調査年度：平成 29 年度、令和 3 年度、令和 4 年度）

2. 調査対象・方法・実施期間（令和 4 年度調査）※他の調査年度は報告書に記載

対 象	嘉飯地区の県立高校 1 学年全員
調 査 方 法	各学校に配付・回収を依頼
実 施 期 間	令和 4 年 7 月 20 日（水）～8 月 21 日（水）

3. 配布・回収状況（令和 4 年度調査） ※他の調査年度は報告書に記載

高校名	配布数	回答数	回収率
稲築志耕館高校	154	138	89.6%
嘉 穂 高 校	280	206	73.6%
嘉穂総合高校	111	91	82.0%
嘉穂東高校	218	214	98.2%
合 計	763	649	85.1%

4. 調査結果概要

《回答者属性》（報告書 P15）

○回答者の居住地は、全ての調査年度において「飯塚市」、「嘉麻市」、「桂川町」の順に多く、2市1町で全体の9割以上を占めている。

○学校からの距離については、平成 29 年度調査と比べると、「5km 未満」の割合が大きくなっており、令和 3 年度からは「5 km 以上」が減少しているため、全体的に近距離傾向にある。

《主な交通手段》（報告書 P16～20）

○全ての調査年度において「自転車」を利用した通学の割合が最も高くなっている。次に「自動車」の割合が高くなっており、令和 3 年度調査からも増加している。

○自動車での通学の理由としては「家族の通勤時間と重複するため」が最も多くなっている。

○「鉄道やバス」などの公共交通機関の利用割合は、平成 29 年度から微増傾向である。

○最寄りの駅・バス停までの移動手段を見ると、「徒歩」の割合が全ての調査年度で最も高くなっており、次いで「自動車」となっている。登下校で比較すると、下校時では、登校時より「徒歩」の割合が高くなり「自動車」が低くなっている。いずれにしても公共交通を利用するにも駅やバス停まで自動車を利用する必要がある回答が多く見られる。

《公共交通に対する要望》（報告書 P21～22）

○バスや電車の運行本数を増やしてほしいという意見が多くを占めており、利便性の向上を願う声が多い。